

ヤチダモノナガキクイムシ

広葉樹丸太に径2mmほどの円い穴が開き、木くずがでる。穴は材内に向かってまっすぐに伸び、穴の壁は黒く変色する。穴の中には茶色の甲虫（成虫）やイモムシ（幼虫）がみられる。成虫は体長約6mm、円筒形で脚（あし）が平べったい。幼虫は最大長約7mm、頭は黄色、体は白く、脚がない。

材質を低下させる。

【学名】 *Crossotarsus niponicus*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera）, ナガキクイムシ科（Platypodidae）

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; 台湾.

【特徴】

よく似た種にヨシブエナガキクイムシやシナノナガキクイムシがある。肉眼での区別は難しい。

【生態】

宿主：ヤチダモ, シナノキ, トチノキ, ホウノキ, ブナ, イタヤカエデ, クリ, ミズナラ, キハダ, ハリギリ.

生活史はよく分かっていない。丸太に寄生する。成虫は6～10月までみられるが、夏に多い。新鮮な丸太を好み、材の中心に向かって10cmほどまっすぐに穿孔する。穴は先の方で左右に分岐する。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ヤチダモノナガキクイムシ [kiokui/yatinaga/
kaiset.html](http://kiokui/yatinaga/kaiset.html)

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/26.